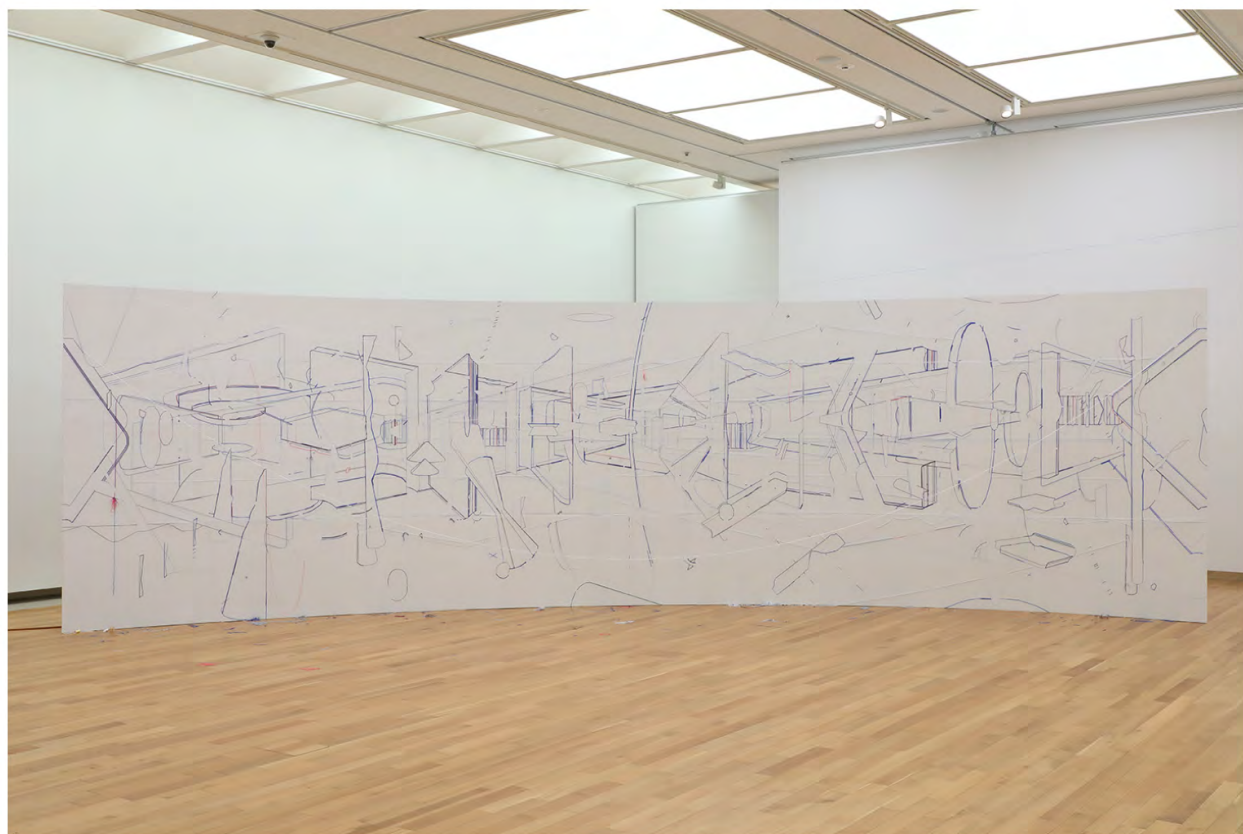


Tachibana, Miki, 'Curator's Note: Artist tachi no kyakkansei', on: www.artscape.jp, 15 Octobre, 2019, ill.

制度が内包するエラー

2部屋目の盛圭太は今回、代表作《Bug report》を公開制作した。幅8.5メートル、高さ2.4メートル、ゆるくカーブを描いた真っ白な壁に盛は一本、また一本と糸を貼り付けていく。展覧会オープンまでの3日間とオープン後2日間で完成させた。隣の壁には襟元の糸がほどけたシャツがあり、その糸が本作へ伸びているという仕組みだ。その光景は、この不可思議なドローイングを構成する糸が、いかに私たちに身近なものであるかを再認識させる。《Bug report》は至るところで糸がほつれ、線が途切れ、ぶつかり、重なっている。これらの予期しない糸の様相を盛は社会のBugとしてとらえている。社会には明文化された法律から内輪だけで通じる暗黙のルールまで、大小さまざまな制度があるが、完璧な制度などはなく、どこかに矛盾やグレーゾーンを内包している。盛はそれらを社会のエラーとして考え、糸によるこのドローイングで社会の様相を表現しているのだ。



盛圭太《Bug report》2019 [撮影：木奥恵三]

また、Bugのほかにも、社会や生命に通じるようなシステムや理論が反映されている。たとえば、対称性や二重性がそれだ。また、最近盛が関心を持っているという五線譜も本作には組み込まれている。さらに、公開制作の一番最後で加えられた画面の右端から左端に付けられた白い糸は大きな弧を描いてゆるく垂れ下がっている。背景の無数の糸の多くがピンと張られて人工的な印象を与えるのとは対照的に、重力という大きな力を対比させているかのようだ。盛はこのほかにも初期作品の《眠たい名前》や《strings》などを展示している。